

【特集:おらほの農地集積】

「換地と集積の一体的取り組み」

～転作に新たな飼料作物の導入～

きんせい 金生地区

1 地区の概要

事業名: 経営体育成基盤整備事業	担い手農家: 9戸
関係市町村: 栗原市(旧金成町)	生産組織: 1組織
関係土地改良区: 三迫川沿岸土地改良区	担い手経営面積:
工期: 平成12～19年度	実施前 26.6ha (集積率17.8%)
受益面積: 149.6ha	H17年度 62.7ha (集積率41.9%)
総事業費: 2,097百万円	担い手農地集積増加率:
受益農家数: 245戸	135.7%(H17)



2 地区の現状

当地区は栗原市金成の東部中央に位置し、水稲単作主体で専業農家の一部では畜産(繁殖牛)を取り入れた複合経営が行われている地区である。地区内の平均耕作面積は1.1ha程であるが、高齢化と後継者不足から来る作業委託等が進み、2種兼業農家の増加が顕著になりつつある。事業地区内では、ほ場整備を契機に転作を積極的に取り組むと共に転作作物の品種についても色々検討するなど、転作の定着と共に農地集積が進む要因になっている。

3 地区の特徴

平成12年度に事業採択されると同時に「金生地区集落営農推進委員会」を設置。その結果、次の取り組みが始まった。

○ 推進委員会の概要

- 委員会の構成員: 評価委員代表(1名)、実行委員代表(1名)、換地委員代表(1名)、貸し手代表(7名)、行政区長(4名)、受け手代表(3名) 計17名
- 活動内容: 事業の啓蒙及び普及並びに関係機関との連絡調整、土地利用調整活動による農地集積推進、担い手農家及び生産組合を中心とした営農体系整備、農作業受委託等の協定に関すること。
- 活動スケジュール: 6月/事業計画と農地集積の検討・啓蒙、9月/農作業料金・H18事業転作について、1月/連担団地の検討と稲作の精算状況の確認、3月/H17事業実績確認とH18事業計画の検討。
- 事務局: 栗原市金成総合支所産業建設課

換地と集積が一体的に取り組みされた

平成14年度から面工事を開始し、16年度迄に93.7haの区画が整備済みとなり6割以上の進捗となっている。この部分は夏川と東北自動車道に囲まれた金生囲いと言い、平坦で一つの字囲いであることから耕作し易く「担い手」に集積できた面積は50.7ha(54.1%)で、殆どが水稲の作付けである。この区域で残るのは排水処理の協議の関係からジオマテック第2工場の南側1.7haだけになったが、本年度中に工事する予定である。また、金生囲い以外に桜町囲い分55.9haがH17年度以降に残っているが、これも本年度に全面積を工事予定し完了させるものである。これにより経営基盤強化法による利用権設定面積がH16年度に16.2haであったものが、H17年度には41.7ha(地区の27.9%)にもなり、H18年度では更に伸びるものと思われる。

この地区の推進活動の特徴は、換地原案計画策定時に換地委員会に於いて担い手集積区域と個別完結区域にある程度分けて指定し、



▲一時利用指定団地化計画図

一時利用指定(案)説明会で、原案に基づく張り付けを行い、担い手への集積を確定するとともに、可能な限り利用権設定をして頂くものである。特に面工事期間中の利用権設定は、難しい状況にあるが農業委員会と協議調整の結果、1年間の利用権設定(メリット:一時利用指定地に係る賃借の精算事務の簡略が図れること。)を認めて貰い比較的容易に利用権設定で進めている。利用権設定しない部分は、作業受委託として契約しながら集積を進めている。

○ 平成17年度の地区の主な推進活動

- 集落営農推進委員会の開催。
- 平成16年度工事完了のほ場に於ける営農指導。
- 担い手である金成生産組合の打合せ。
- 農地集積アドバイザーによる農地集積研修会の実施。
- アグリセンターによる、来年度の作業委託契約準備会及び契約会の実施。その結果、平成18年度末には集積見込みが52%となり、より一層目標(63%)に近づく。



▲土壌改良資材投入作業

特別栽培米の取り組み始まる

金生囲いの中の平成15年度まで施工済み区域、約10haにおいて、JA栗っこ金成中央支店営農課の指導のもと、担い手が平成17年産から特別栽培米の取り組みを始めた。これは平成16年度に旧金成町に金成有機センターを設置したことに伴い、単に堆肥を入れるだけに留まらず、さらに付加価値を付けるための試みとして、土壌改良資材「ワーコム」を併用し、農薬、化学肥料を節減した特別栽培米である。この資材を3年以上継続使用して生産された米は、「ワーコム米」として食味の評価が高く、一般の米より流通しやすく、売れる米として出荷出来る。今後とも特別栽培米の作付け面積を広げて行く計画で、担い手を始めとする各耕作者の地道な努力が必要である。



▲特別栽培米の収穫作業

(ワーコムの特徴: ワーコムに含まれる有効微生物群が繁殖するときにだす酵素が、土壌の有機微生物を分解し、土壌微生物の動きを活発にすることで栄養豊かな土壌を育て、根が丈夫になり、品質の向上と収量の増加に繋がる堆肥素材発酵促進剤である。)

事前事後転作に新たな飼料作物を

金生地区転作組合は、前年度まで使用していた転作作物「ライ麦」に換わり、平成17年度事前転作地(26ha)と事後転作地(7.1ha)に、家畜用飼料作物「グリーンミレット」の作付けを行った。この作物は水田では雑草として嫌われる「ヒエ」を転作作物として品種改良したもので、ライ麦に比べ生育が良く種子が田んぼに残らない、つまり落下した種子は再発芽しないことや、ほぼ年中作付けが可能であることから収量も1.1～1.5倍といった特徴があり、また、栽培管理も容易な作物であることから、畜産農家との連携が今まで以上に期待している。



◀ グリーンミレットの種子と播種作業

▶ 刈り取った飼料作物の収穫作業



4 今後の活動

今年度中に地区アグリセンターを立ち上げることにより、自分達の集落は自分らで守るという信念の元、集落ぐるみ営農の展開を図りながら地域の活性化を図ろうとしています。今後、地区アグリセンターの設立に伴う農地集積機能強化と担い手や生産組合の生産技術向上による集落営農体形の整備についても検討することとしています。

《問い合わせ先》
〒989-5171 栗原市金成沢辺町沖205
水土里ネットさんはさま(三迫川沿岸土地改良区)